

大阪市長・松井一郎 殿

「慰安婦問題は完全なデマ」発言に抗議し撤回を求める

2019年8月6日

大阪平和委員会

会長 西 晃

大阪市中央区谷町7-3-4-210

電話 06-6765-2840

愛知県内で開催中の芸術祭で、旧日本軍「慰安婦」を象徴する少女像を展示した企画展が中止された問題で、松井一郎・大阪市長は5日、「慰安婦問題というのは完全なデマ」などと言い放ち、「デマの象徴の慰安婦像は行政が主催する展示会で展示するべきものではない」などと大阪市役所内で記者団に述べました。

松井市長はさらに、芸術祭の実行委員長を務める大村秀章愛知県知事が展示の内容を「もっと精査すべきだった」などと述べ、「検閲」を当然視する立場も示しました。

日本政府は、1993年8月4日、慰安婦関係調査結果発表に関する河野洋平官房長官談話で「今次調査の結果、長期に、かつ広範な地域にわたって慰安所が存在したことが認められた。慰安所は、当時の軍当局の要請により設営されたものであり、慰安所の設置、管理及び慰安婦の移送については、旧日本軍が直接あるいは間接にこれに関与した」と述べた上で、「われわれはこのような歴史の真実を回避することなく、むしろこれを歴史の教訓として直視していきたい。われわれは、歴史研究、歴史教育を通じて、このような問題を永く記憶にとどめ、同じ過ちを決して繰り返さないという固い決意を改めて表明」しています。

今回の松井市長の暴言は、上記の日本政府の河野談話を否定するものであると同時に、歴史に謙虚に向き合う姿勢が皆無と言わざるをえません。憲法21条が保障する「表現の自由」をも真つ向から踏みにじるものです。

大阪平和委員会は、今回の貴殿の発言に抗議し、撤回を求めます。

以 上